OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	巻頭言 ： 第13号の発刊に寄せて
Author(s)	湯川, 笑子
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 2017, 13
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69348
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻頭言
第13号の発刊に寄せて

『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』第13号をお届けします。2016年度のMHB研究大会は、継承語教育を取り上げ、「継承語教育と超多様性」というテーマを掲げて開催しました。このテーマに関して、２つの基調講演と実践報告をお願いし、さらにもうお２人の方から、継承語話者当事者のライフ・ストーリーを聞くことができました。

本紀要には、まず、基調講演者である中島和子氏より、「継承語ベースのマルチリテラシー教育―米国・カナダ・EUのこれまでの歩みと日本の現状―」をご寄稿いただきました。このタイトルにあるように、この論文では、継承語教育の歴史的な経緯と世界的な状況という大きな視野からの鳥瞰図の提示後、今後の課題と継承語教育に関わる者への指針が指し示されています。また、もうお１人の基調講演者である坂本光代氏は、あらためて本紀要のために、大会テーマの「超多様性（スーパー・ダイバーシティー」という概念について、要点をまとめて下さいました。読者を代表して、湯川が対談の聞き手としてこの概念について質問し、それに丁寧に答えていただいたものを、対談録として掲載しました（「対談　スーパー・ダイバーシティーとは何か」）。さらに、まさにそうした多様性に対応しようと努力されている継承語教育実践の事例として、招待講演者の中野友子氏より、「多様性に対応したブルックリン日本語学園での継承語教育の実践」という論考をご寄稿いただきました。世界のさまざまな場所で継承語教育にたずさわっていらっしゃる方に参考になる点が多々あろうと思われます。ご講演に加えてこの紀要へ玉稿をお寄せ下さいました３名の講演者の方がたに、この場を借りて、再度心よりお礼申し上げます。

一般投稿論文として、本号には、研究論文２本、実践報告２本、研究ノートが１件採用されました。研究論文では、まず、柳瀬千恵美氏が中国における継承日本語学習者の漢字と現地語である中国語の漢字の習得との間で、どのような関連や転移が起こっているのかを考察しています。複数の言語が影響しあって育っていくというバイリンガルならではの成長過程を分析した論考です。もう１本は、田中瑞穂氏・佐野愛子氏の論文です。ろう児が手話で絵本を読み聞かせてもらうことによりコミュニケーション能力を高めていくことをとらえた研究です。生後７か月から２年間、聴者の母親とともに、日本手話で絵本を読み聞かせてもらっ

たことによる成長の様子を、録画データをもとに詳しくたどってあります。

実践報告部門では、まず、近藤美佳氏が、各週に１時間母語学習の支援者として、小学校におもむき、２年生だったベトナム人児童を４年半にわたる長期間教えた実践をまとめています。この実践を通して、通常失われやすい継承ベトナム語が伸びた要因を考察しています。もう１本は、これも同じく公立学校で、継承語としての中国語伸長を目指して支援をした田慧昕氏と櫻井千穂氏の報告です。継承中国語の週１回の授業についての報告に加えて、５年生９名の継承語授業中の発話を質的・量的に分析し、継承語教育の有益性を検証しています。

最後に、研究ノート部門では、尾関史氏がハワイの高校生を対象とした日本語クラスで、生徒にとって日本語と英語がどのような意義を持っているかを探った結果をまとめています。

このように、本号は、本年度の MHB 研究会のテーマである継承語教育について、理論から実践まで、多岐にわたる視点から考察した論考が豊富に集まった貴重な１冊となっています。是非、全冊通してお読み下さい。

巻末には、例年通り、活動報告、SIG（部会）情報、入会規定、紀要第14号への投稿規定などの情報も記載しております。MHB ウェブページ情報と合わせてご利用下さい。紀要13号の発刊に際し、ご投稿下さった方、査読、編集に多大な労力をささげて下さった方、その他関係者の皆様に感謝いたします。

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究会事務局長
湯川 笑子
2017年3月